

第 3 回館山市議会定例会会議録

(第 3 号)

1 平成4年9月17日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	25番 流山源次郎
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 3名

17番 鈴木 忠夫	20番 生稲 陞
26番 辻田 実	

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第3号）

平成4年9月17日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法はきのうと同じであります。

これより発言を願います。

6番議員植木 馨君。御登壇願います。

（6番議員植木 馨君登壇）

◎6番（植木 馨君） さきに通告いたしました4点について御質問をいたしたいと思います。

まず第1点は防災対策の充実でございます。防災といいますと、地震、津波、風水害のみを対象に思いがちですが、火災も防災の中に入れた考え方で御質問をさせていただきます。

防災は、私が申し上げるまでもなく、災害を最小限に防ぎ、生命、財産を守る大切なことでございます。常日ごろから災害が発生した場合の防災知識や心構え、準備を忘れてはならないと思います。先般の防災の日も、相模トラフ上に大地震発生を想定しての合同防災訓練が各市町村において一斉に実施されましたが、これは平常時において非常事態に備えてその被害を最小限に食いとめるための合同訓練であったものと思います。防災上、被害を最小限に食いとめることが大切な要素であるとするならば、日常起きる火災も同じことが言えると思います。

そこで、小さな1としまして消火栓器具箱の設置についてお伺いをいたします。まず、消防団について目を向けてみたいと思います。昨今若者の流出やサラリーマンの増加などにより団員確保が困難となり、消防団員の減少が年々深刻化しております。現実に団員のほとんどが公務員や会社などに勤めている関係上、日中の火災には人がそろわないケースが目立っています。したがって、日中団員不在の消防のため、消防力の低下が住民に不安を与えております。このことは各市町村が抱えている共通の悩みであり、問題点であると思います。この問題点を解決するため、いろいろ懇談会を開催、研究しているようですが、時代の変化、流れで、とめることのできないのが実情です。

私もこれについて日ごろから関心を持っており、実態研究の意味から各市町村を巡回、調査活動をさせていただきました。2～3の町村では、消防団の実情を踏まえ、自警自守の精神に基づき、消防団の補助的役割を果たすため、女性消防団の組織づくりや、消防団退団者——OBによる自主防災クラブの結成やら、自治防災会を強化、地域の消火活動に役立つ訓練の実施等、いずれも日中の火災に備え、特に初期消火活動を目的に、消火栓を中心にだれでもが使える、消火ができる訓練がなされていることを聞きました。実情をとらえ、将来を見越した勇断を持ったその手段は見習うべきであると思います。

この巡回中に消火栓器具箱の設置状況について調べましたところ、本市を除いて郡内全市町村に設置されておりました。消火栓器具箱には、火災発生時にその周辺に消火活動に足りるだけのホースと管鎗、消火栓開閉器具が保管されており、この活用は消防車が到達しない前の初期消火に大いに役立っている話も聞きました。本市においては、消火栓数も企業などの私設を含め717カ所もあり、隣の千倉町の約3.5倍の数であり、郡内随一ですが、残念ながら消火栓器具箱の設置は皆無の状態です。

そこで伺いをいたしますが、本市は消火栓のそばに消火栓器具箱をなぜ設置しなかったのか、その理由と、今後災害に強いまちづくり対策の中で新設へのお考えがあるのかどうか、御所見を賜りたいと思います。

小さな2としまして、館野、九重地区水道拡張に伴う消火栓新設計画についてでございます。本市の念願でありました水道用水供給事業も南房総広域水道事業団により着々と進められており、特に未給水地区でありました館野、九重地区への給水の見通しがつき、大変喜ばしいことでございます。消火栓活用や消火栓器具箱の設置等の必要性を御提案申し上げましたが、この地区にも必要欠くことのできないものです。水道拡張計画と並行しての消火栓新設計画がどのようなになっておられるのかお伺いをいたします。

次に、小さな3としまして防災行政無線の活用の拡大についてでございます。この件につきましては前回島田議員より質問がありました。今回と二重の質問となりますが、それだけに活用が欠くことのできない必要性を持っているからです。

そこで御提案申し上げるわけでございます。幸いにして前回の答弁の中に、防災無線の使用の基準は地震、津波に限って使用することとして設置されたということでございますので、すばらしい放送機能を持つ防災無線設備を拡大解釈して、火災発生の報知に活用させたら、その価値と効力がさらに発揮できるものと思います。使用の範囲拡大をお願いするものでございます。

さらに、使用範囲拡大の中で、農村地帯の拡声子局の設置数が少ないため、放送が届かないところがたくさんありますので、全戸が傍受できるよう工夫、増設の検討をすべきではないかと思います。市当局の前向きな御所見をお伺いいたします。

次に、2点目は遊休地利用促進についてでございます。現在千葉県企業庁のお骨折りによりインダストリアルパークの事業化が進められ、さらに市が直接対応しているウエルネスリゾートパーク計画による土地先行取得が積極的に進められておりますが、いずれもあすへの市の発展を創造し、理想の実現に向かって取り組んでいる姿勢は高く評価するものでございます。市民が注目、期待をいたしているところでもございます。インダストリアルパークは、企業を誘致し、稼働するまでは膨大な時間と事業費が見込まれます。大規模な計画だけにぜひとも成功させなくてはならないと思います。

私はこれとは対照的な遊休地利用の促進を御提案申し上げるものです。現

在神余地区に山砂を採取した跡地が整地され、地権者に返還された遊休地がございます。その面積は富士ディーゼル跡地をはるかに上回る実測約27町歩の土地が利用されず放置されております。全くもったいないと思います。県道沿いにあり、立地条件としては鴨川金束のフジボシ封筒工場や丸山町加茂、千葉スーパーレジン工場と同程度の場所であり、面積から見ても20倍以上の広さがあります。この両者の規模の工場なら10や15は導入できます。そのほか、大学、総合病院候補地としても考えられます。地域の活性化のためにも、市の発展のためにも、また若者の安定した雇用の場を確保してやる点から見ても、容易に着手できる遊休地です。活用の対策を積極的に検討することを要望するものです。市当局の前向きな御所見を承りたいと思います。

次に、3点目は有害鳥獣対策についてお伺いをいたします。現在鴨川市は、有害鳥獣被害者協議会より、農産物、林産物だけでなく、一般民家を脅かす被害に及んでおり、農地を耕作するのを放棄する農家が続出、したがって農業に見切りをつけようという状態まで追い込まれ、また民家の庭先までダニ、ヤマビルに脅かされ、安心して生活ができない毎日であり、住民の生活に脅威を与えており、これ以上我慢できない苦痛から、このたび千葉県並びに県議会、環境庁に根本的な対策を求め陳情をしたことは既に御承知のことと思います。

この件につきましては、鴨川周辺市町村だけでなく、本市におきましても有害鳥獣の被害が続出しております。特に、夜行性を持ちますタヌキ、ムジナ、アナグマ等の被害は住宅周辺の農地まで及んでおります。夏作であります落花生、食用トウモロコシ、サツマイモ等は収穫皆無の被害を受け、畑の耕作を断念する農家もふえている現状です。この上に清澄山系より追い立てられた猿、シカ、イノシシが移動されたら、その被害はさらに大きくなることが予測されます。本市においても他山の石でなく、この抜本的な被害防止対策は安房郡市の問題としてとらえ、足並みをそろえ取り組んでいく必要があると思います。市当局の御所見をお伺いいたします。

続きまして、第4点目は館山駅橋上駅舎建設についてお伺いをいたします。この件につきましては、さきに先輩議員からるる質問もあり、重複いたしま

すが、私も現在館山駅周辺整備調査特別委員会に所属しております関係上、常にこの件につきましては強く関心を抱いております。先般6月の当議会において館山駅橋上駅舎建設に関する請願が全員一致をもって採択されました。特色ある館山を創造し、海洋性リゾートタウン館山の玄関口としてふさわしい橋上駅舎の建設は市民が強く期待をいたしているところでございます。また、東西地区一体性から見ても、市民、観光客の利便性の点からも、一日も早くその活路を見出すべきであると思います。

しかし、今まで自由通路の中で当局の御答弁は、将来の橋上駅舎を考え、自由通路を建設していくとのことでありました。したがって、私は御答弁の内容から察するに、現在橋上駅舎建設に関する計画はまだ白紙であると思われるのですが、どのようなことになっておられるのか、当局の御所見を承りたいと思います。

現在西側の土地区画整理事業も順調に進んでいるようであり、昨今館山駅西口地区街づくり協議会及び館山市町内会連合協議会の連名で館山駅橋上駅舎建設促進の署名運動が展開されておりますが、市長さんはこの件に関しどのようにお感じになりますか、またどのように対処してまいりますか、お伺いをいたします。

以上で質問を終わりますが、御答弁により再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの植木議員の御質問にお答えいたします。

防災に対します基本的な考え方は私も同じでございますが、御質問の大きな第1の小さな第1点目、消火栓器具箱の設置についての御質問でございますが、消火栓器具箱は、火災発生に際しまして地区住民の方が消火活動に使用するため、消火栓の近くにホース等消火器具を収納した箱を設置するものでございます。これには器具の操作可能人員の確保やその指導訓練、あるいは器具の管理等諸要件が伴ってまいります。館山市といたしましては、これらの諸要件を踏まえまして今後検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、館野、九重地区水道拡張計画に伴う消火栓新設に

についての御質問でございます。拡張区域の配水管は約25キロメートルの布設を計画しております。これに伴います消火栓は約83基を設置する予定でございます。

次に、小さな第3点目、防災行政無線活用拡大と拡声子局の増設についての御意見でございますが、館山市で最も配慮しなければならない災害は地震と津波でございます。その中でも津波対策を最重要課題として設置いたしました防災行政無線でございます。また、防災行政無線の使用基準につきましても、災害に限って使用することとしまして、屋外拡声子局から放送があれば、災害に関する緊急かつ重要な情報を提供しているという認識が市民の皆さん方に定着しつつあるところでございます。したがって、今のところ従前どおり災害に関する以外は使用しない方針でございます。また、屋外拡声子局の増設につきましても今の時点では考えておりません。

次に、大きな第2、遊休地利用促進についての御質問でございますが、これは神余地区の砂採取跡地についての御質問と承りましたので、今後当地権者等の意向を踏まえつつ検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、有害鳥獣対策についての御質問でございますが、実際に被害が出ているのが実情でございます。その中で、今年度館山市内においては4件の駆除申請があり、駆除を実施したところでございます。御指摘のとおり、天津小湊町、鴨川市の実情を踏まえ、今後は広域的な対策が必要と存じます。このため、県、農協を含め、安房郡市町村一体となった有害鳥獣対策を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、橋上駅舎についての御質問でございますが、橋上駅舎建設に関する請願採択後における状況につきましては、資料作成のため、県内主要駅の橋上駅舎化の動向を初め、施設の規模、建設費用等につきましても、その情報の提供をJR東日本旅客鉄道株式会社千葉支社等をお願いしているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ただいまの消火栓器具箱の設置について、前向きに

検討すると一歩前進した御答弁をいただきました。これにつきましては、まず消防署から少し離れた地域、分団の中で部の置いてない地域から順次検討をお願いしたいと思います。というのも、火災の発生の場合、出火してから一変して火の勢いがついた状態——つまりフラッシュオーバーといひましょ
うか、その時点でびっくりして 119番をする方が多いように聞いています。また、フラッシュオーバーになった時点後5分ぐらいが初期消火の最も大切な時期であると耳にしております。どうしても農村地帯ですと、消防団員も不在が多く、消防署の消防車も距離的な関係から到着するのが遅くなり、初期消火には間に合わないケースが多くなっております。したがって、消火栓活用が重要視され、そのような実態を踏まえた中で早急な検討を要望しておきます。

次に、館野、九重地区の消火栓設置数は、25キロメートル、83基の設置という御答弁をいただき、大体知ることができました。

そこでお尋ねいたしますことは、今後その消火栓設置に対して、地上型にするのか地下型にするのかお伺いをいたしたいと思ひます。

さらに、これに関連して、水道管75ミリ布設という話も聞いておりますが、この75ミリ管ですとホースの口金と同じ大きさですが、75ミリ管を一直線上に、200メートル置きに消火栓を設置し、それから同時に2本のホースで消火に当たった場合に機能が十分發揮できるのかお伺いをいたしたいと思ひます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御質問の消火栓の立ち上げ式——いわゆる地上式の消火栓か地下型の消火栓かというお伺いでございますけれども、地上式の消火栓は、交通の繁雑化に従って交通事故等による損傷が多く、また道路事情により設置場所にも困難がありますので、原則的には従来どおり地下式を採用してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 御指摘の水圧についての御質問でございますけ

ども、配水管の整備に当たりましては、最大配水量に対しまして給水区域内の水圧ができるだけ一様になるように管の口径を決定するのが基本でございまして、また地形等によりましては、適正な水圧を保つための減圧弁等が用いられるということでございますので、消火作業には支障はない、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ただいま — 消火栓の設置の型でございますけれども、一応地下式という御答弁をいただきましたけれども、私はその損傷とか、そういったことを考えたときに、地下式ですとどうしても — 消火栓器具で地下に埋設してある消火栓をあけながらホースをはめ込んでやるわけですが、そうすると結局それが道路で — 一応その現場へ持っていくわけですが、折れたり、そういう非常に損傷が多いように伺っています。

現在千倉町では本年度から設置する消火栓は地上型に変えていくという話を直接伺いましたけれども、というのは、現在の消火栓 — 地上型ですと、右にも左にも自由に口が曲がるそうです。非常に最近の消火栓はよくなっている。ですから、右の方で火災があれば右にホースを向けていくから、道路沿いに右へとずっと持っていくわけです。これ真っすぐですと、どうしても道路でぐっと曲げるような形になって、道路の交通とか、そういうのでホースを傷めるような、そういうこともありますけれども、今はそれが左右曲がりますから、どちらに火災があっても自由にこれができるというような、そういうことで、そういう地上型の首が自由に振れるものに一応本年度から変えていく。本年度も大体6基新設を予定しているというお話でございましたけれども、そういった面を十分検討されて、もう一遍地下型にするか、地上型にするか、この設置に対しては慎重に一応構えていただきたいと思います。

それから、水道管の要するに水圧の件でございますけれども、水道課長は2本の水道管で十分機能を発揮できるということでございましたので、その点は了解いたしました。ありがとうございます。

じゃ、済みませんけれども、その今の首を振ることに対してお考えがあり

ましたら、立ち上げ式の消火栓についてのお考えがありましたら御答弁願います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 消火栓の地上式、地下式の関係でございますけれども、これは主管課と、また消防団、それから地域の方々と十分相談をいたしまして、そういった希望があれば、水道課としてはそれを設置することもやぶさかではございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 次は防災無線拡大大使用についてでございますが、御答弁によりますと、使用する考えは持っていないということでございました。余りにも——きのうちょっと声がありましたけれども、お役所的な、事務的な答弁であり、非常に残念です。私の質問をよく理解されていないように思われます。

日中火災が発生した場合、消防団員はほとんど仕事勤めに出ております。団員は不在で、しかしその団員が携帯無線を個々に持っていれば別ですが、今はそういう現状じゃございません。いち早く傍受し、いち早く団員が火災現場に急行できる最善の方法は、防災無線で市内に一斉に火災発生を報知することが最も効果的であり、そればかりではなく、近くにいた住民が近火を知り、いち早く初期消火に当たることもでき、大事を小事に食い止め、不幸中の幸いと市民が喜び合うことができるんじゃないでしょうか。

そこで、私が一例を申し上げますと、大原町のことをお話ししますけれども、大原町では防災無線で防災子局から一斉に火災発生が報知されます。報知されて、その言葉が終わったか終わらないかぐらいに一番早い消防車が飛び出していきます。これは私が2年間大原町に勤めておった関係上、常にこの2年間に体験したことでございます。非常に出勤が早い。これを一応その当時の大原町民に聞きましたら、うちの消防団の場合は、この報知を受けたら、もう仕事をしておっても、消防団員はすぐもうそのまま報知を聞きながら消防自動車の詰所に一応駆けつけていくそうでございます。ですから、本当に

消防署と各分団の消防車が出動するのはそんなにもう時間は大差がない。そういう非常に出動の仕方というのが迅速であるということを痛感して、教えられたわけでございますけれども、これはやはり防災無線で火災発生を報知するその大きな効果であると思います。そういったことも市当局もよくひとつ研究され、視察されて、これを見習って、ぜひともこの防災無線の活用の拡大ということにひとつ力を注いでいただきたいと思います。

つい最近ございました九重の牛30頭——牛舎の火災がございましたけれども、このことについて聞き込みをいたしましたところ、400メートル離れた元消防団員の方の話ですと、煙が上がった——その方はごみでも焼いているように思った。10分ぐらいしたら火の手が上がり始めた。それで初めて火災ということを知った。しかし、団員でないので、一応現場に行けばやじ馬に間違えられるから遠くで見ていた。消防車が到達して放水を始めたのが煙が出てから約25分ぐらいたっていた、こういうのが実情です。

そのようなことを踏まえた中で、市民の生命、財産を守るために、早く報知できるように防災無線使用拡大をいま一度具体的に検討していくことが大切だと思います。強くこれを要望する次第でございます。

そのほか——これは関連でございますが、関連質問といたしまして、他町村では、日中消防団員の不在のために、消防力の低下を補う目的から自治防災会なるものを強化、組織の強化をし、その育成に踏み切っているようですが、本市も市全体ではなく、必要な地域を選定して組織づくり、育成が大切に使われますが、当局の考え方を承りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 自主防災会に関する御質問でございますけれども、御承知のとおり館山市では現在 160町内会があるわけでございますが、現在 149町内で結成されている現状でございます。この自主防災会の防災訓練等もその中で実施をされているということでございます。この訓練内容等も、消火器を中心とした初期消火から始まりまして、いろいろ消防本部の指導によりまして実施しているわけでございます。これからも 100%の結成率を目指しまして促進方進めていきたいというふうに考えております。

なお、館山市では93%ですが、県下の市の中では組織率としては一番でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） よくわかりました。その自治防災会も、それだけで誇り得る防災会の組織ができていることであれば、さらに今度消火栓器具箱の設置を検討していくということでございますので、そういう防災会の訓練と組織づくりに、育成にひとつ励んでいただければと思います。じゃ、この件につきましては以上で質問を終わります。

次に、遊休地利用促進についての御回答をいただき、地権者と話し合っ
て検討していくという答弁をいただきました。このことにつきましては、私も
いろいろと各市町村の企業の進出状況について聞き込みをいたしました。特
にその中で、1つの例として、丸山町加茂に進出した千葉スーパーレジ
ン株式会社の進出の流れについて参考として簡単に御紹介をして再質に入り
たいと思います。

このスーパーレジンの会社は、大理石を加工し、キッチンとか洗面台、そ
の他プレス製品、それからACM製品の加工、こういったものを行っている
会社でございます。社長は千葉の出身であり、地元への進出を計画して県庁
に相談に伺ったそうでございます。県庁では現在企業誘致に熱心に取り組ん
でいる丸山町を紹介していただいたことがきっかけとなったそうございま
す。丸山町では喜んでこれを受け入れ、町が最近行った真野線の拡幅工事で
出た残土で埋め立てした遊休地があったわけで、それを指定し、スムーズに
何の抵抗もなく現地に進出ができたということでございます。また、雇用の
面でも町に協力をいただき、非常に助かったというお話でございました。も
し一企業が単身で不動産業者を通じ進出を企てた場合は、行政や周囲の規制
を受け、思いがけぬ苦勞をするのが常ですけれども、このようにスムーズに
進出できたのは、行政が絡み、積極的に支援、御協力をしてくださった結果
であるとのことでした。行政が積極的に企業誘致に取り組む姿勢がいかに大
切であるかを教えられました。

このような点から見て、本市はむらおこし、まちおこし、そういった対策の中で、企業誘致に対する姿勢が非常に弱いように思われます。今後の企業誘致対策にどのような姿勢で臨むか、当局の考え方をお伺いしたいと思っています。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 企業誘致に関しての問題でございますけれども、当然企業を誘致する場合に、今御質問のようにやはり用地の確保というのが非常に課題になるわけでございます。そういう意味で、御質問の中にもございましたように、インダストリアルパーク構想、そういうものを積極的に進めているわけでございますけれども、今後とも企業の動向等を踏まえて積極的に企業誘致を図ってまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 丸山町のように対外的に企業誘致を積極的にPRする対策、こういったものが私は必要かと思えます。

そこで御提案申し上げますけれども、まず第1点目として、市民から土地利用希望の出た場合、その登録制度をつくったらどうか。常にそれをプールしておく方法はどうかということが第1点。

第2点目としましては、誘致委員会を設置するとか、または企業誘致開発公社とか、そういう何かをつくって対外的相談の窓口を開設したらどうかということ。

3点目は、かつては本市も企業誘致条例というものがあったそうでございますけれども、その後廃止され、現在に至っているという話を聞きました。新しい現代に沿った公害のない企業進出をしやすい企業誘致条例をつくって積極的に取り組んでいったらどうかという考え方を持っているわけですが、以上3点について当局はどういうお考えをお持ちになるかお伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） ただいま御答弁申し上げましたように、当然前提になるのが用地の確保ということで、また館山市の工業というものをど

ういうふうに配置していくかというのがやはり問題になるだろうと思います
が、現在都市マスタープランを昨年、ことしにかけて作成しているわけでご
ざいますが、それらの動向を踏まえて今後とも企業誘致に努めてまいりたい、
このように考えております。

◎議長（福原 勲君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） じゃ、この件につきましてはそういった前向きな検
討をして、今後館山市の活性化のためにもひとつ — きのう出雲市の話が出
ましたけれども、市民サービスに十分対応できるような、またはそういう
— 誘致して市の活性化を図れるような、そういうまちづくりをひとつ考え
た中で強力な対処をしていただきたいと思います。

次に、3点目の有害鳥獣対策についての御答弁でございますけれども、広
域的な考え方でこれから対処していきたいということでございます。非常に
前向きな御答弁をいただきましたが、これは広大な土地の被害を食いとめる
ということになるわけで、いろいろ人海戦術をとってやっても、非常にこれ
は至難のわざであると思います。

そこで、1つの私は例として御提案申し上げますけれども、ある農家で
— これは実例でございますけれども、この農家は毎年落花生が被害を受け、
いろいろ考えた中で、戦前、戦後15年ぐらまでは農作物の被害というのは
全く見られなかったわけでございます。この原因はどこにあるだろうといろ
いろ考えた中で、当時は野放しにしておいた飼育犬がいたわけでございま
すけれども、この飼育犬が目に見えない働きをしていたのじゃないかとい
うことを思い立って、落花生の畑に、被害が出始めた畑に犬小屋を運んで三日三
晩一応つないでおいた。そうしたらば、一応その後はもう全然無被害状態が
続いて、現在続いているそうでございますけれども、こういった要するに実
例があるわけでございますけれども、今後の県、市町村の抜本的な対策の中
でいろいろ問題点も浮上するかと思いますけれども、人間にかわる犬の活用
を研究し、検討されたらと思います。そして、そういう中で住民が安心して
生活ができるような環境をつくっていただくよう要望いたしまして、次に移
りたいと思います。

次に、橋上駅舎の件でございますけれども、これは関連になるかもしれませんが、過去の御答弁では自由通路は駅広の整備にあわせてやりますということでございましたが、土地区画整理事業も順調に推移している現在、自由通路は平成何年に着工できるのかお伺いをいたします。西口の区画整理が相当進んできておる関係上、これをどうしても私の方として、私の会派でもそれを確認したいということでございますので、平成何年に着工できるかの見通しについてお伺いをいたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 過去の、議員さんに答弁しておるわけでございますけれども、自由通路でやるか、あるいは橋上駅舎でやるか、そういったことを検討しておるところでございますので、この自由通路がいつということはお答えできないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） じゃあ全く今橋上駅舎建設に対することはもう本当に白紙の状態ということでございますか。また、自由通路の着工については。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 自由通路単独ではなくて、橋上駅舎を含めての考えでございますので、御理解願ひしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） もちろん橋上駅舎というものをこれは今関連として出しておるんですけれども、結局当局の要するに答弁の中に、駅広の整備にあわせてやるというような、そういう回答が前もってあったわけです。ですから、それについて橋上駅舎にしても自由通路にしても——自由通路が橋上駅舎に変われば、これは橋上駅舎として何年ごろ着工していくんだ。西口があればもうできているわけですから、形がだんだんできているわけですから、これから例えば3年、4年、5年もしかかったら、西口はできました、じゃあもうしょうがない、自由通路にしちやおうというふうになられちゃ、この今回の橋上駅舎の建設というのが本当にあやふやになっちゃうわけです。

だから、そういうもし今当局の方の考え方であれば、今後やっぱりこの橋

上駅舎建設の推進を図っていくには、何かここで橋上駅舎建設推進委員会とか、そういったものを——市民の代表、議員の代表、市当局の代表、そういった者でこういう委員会をつくって、強行にとにかくもう準備に入らなきゃいけないんじゃないですか。そういうことを一応どうお考えになっておられるのか、ここでもって当局の考え方をお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 西口の整備は目標として平成8年度を考えております。

それで、もう一つ、今の協議会的なものについては、非常にありがたい貴重な御意見として受けとめておきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 一応そのような考え方で真剣に対処していただきたいと思います。

次に、また関連の質問となると思いますけれども、国鉄の清算事業団の土地を入札する新聞報道がありましたけれども、館山駅東西の再開発問題の中で、代替地なり公共施設等、将来を見越して先行投資しておいたらどうかと思います。聞くところによりますと、東地区、銀座商店街地域の再開発が大変おこなわれているように思いますが、その一つの原因は代替地がないということが大きな原因になっていると聞いております。東西一体となった開発推進をしている当局として、その原因解消をする手段の面から見ても、ぜひ先行取得をしておくべきだと思いますが、どのようなお考えでおられるのかお伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 清算事業団の土地が問題になっておるわけでございますけれども、東口の清算事業団の——大体4,000平米でございます。それについての今後のあり方についてはいろいろ検討されるわけでございますけれども、東口の自由通路というんですか、その足場であるとか、あるいはポケットパークであるとか、それから駐輪場であるとか、いろいろ意見はあ

りますけれども、現在のところこれをどのようにしようかということは——考えなくてはいけないんですけれども、現在のところその利用については確固たるものが出ておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 確固たる考えが出てないということでございますけれども、今駅東口周辺の近くにこういう土地はもうないわけです。そういった点から見ても、この空き地は、先ほど申しました代替地だとか、またはもちろん橋上駅舎の今度東口の足場になると思いますけれども、それから続くいろいろなやっぱり公共施設をここへ建てていくにも、入札してほかの人に買われてしまったらもう手のつけようがなくなっちゃうわけでございますんで、そういった点を考えてひとつぜひ先行取得をすべきである。これはうちの会派でもそういうことを強く要望しておりますんで、ぜひともそれに対して強力な要するに体制で早急に臨んでいただかないと、もう入札の声が出ているわけですから、ひとつ真剣な対処をしていただきたいと思います。その点お考えがもしございましたらもう一遍御答弁を願います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきましては、この前の議会で今までの自由通路はこれからの時代を考えた場合に機能を果たせないんじゃないか、橋上駅舎に方向転換すべきであるという非常に先進的な、貴重な御意見を請願として採択していただきました。今の御意見の足場云々の問題は、自由通路の場合には必要な土地かと思っておりますけれども、橋上駅舎になった場合果たして必要な土地かどうか、そういうような基本的な問題もございますので、ここで先行取得で押さえるかどうかというのはちょっと申し上げられませんが、今、先ほど申し上げましたように、JRと根本的な問題から打ち合わせを始めようとするところでございますんで、もう少し時間をかけさせていただきたいと思っております。

ただ、4,000平米という言葉も出ましたが、この前の自由通路の場合の足場としては非常に狭いところでございますけれども、それにしましても非

常に単価が高額のようでございます、ここで現段階におきまして将来のために押さえていく力が市の現状であるかどうか、そこら辺も大きな課題でございます。将来何のためにという目的も課題になってまいりますし、総合的に検討し直し、橋上駅舎の方向に大きく動こうとしているときでございますので、この具体的な踏み込んだ問題まだちょっとお答えできないのが現状でございますので、御了解賜りたいと思います。

◎6番(植木 馨君) わかりました。いろいろと御答弁いただきましたけれども、ひとつ前向きな姿勢でこれからの行政に力を入れていただきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長(福原 勤君) 以上で6番議員植木 馨君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

(7番議員鈴木順子君登壇)

◎7番(鈴木順子君) 2日間にわたりまして大変御苦労さまでございますけれども、私が最後の本定例会の質問者でございます。しばらく時間をいただきます。

私はさきに通告をしてございます次の4点について御質問を申し上げていきます。まず第1点目ですが、住民の健康づくり体制のより充実を、第2点目、駅前駐輪場の整備状況はどうなのか、第3点目、学校5日制の開始に当たり、ゆとりある教育はできると思われるかどうか、第4点目、在宅の要介護者等への援助の充実はどうなのかでございます。順次御質問を申し上げます。

まず第1点目ですけれども、住民が自分の健康を維持する、持続するための健康づくり対策の一つとして、今館山市でも総合検診が毎年行われておりますが、さまざまな総合検診内容であるとは思いますが、特に成人病に対する予防対策としてこの総合検診が非常に役立っているということが統計によって明らかになっているかと思えます。特に、年々検診の受診者数が大変ふえているという報告がされているようですが、これは地元医師会の協力もさることながら、担当課の努力も大きな力となった結果と言えらると思えます。

また、一方では生活様式の多様化によりまして食生活の変化等が見られ、特に成人病は増加をしており、住民にとって検診は自分の健康を知るためにもぜひ必要なものではないかと思います。

また、現在市ではほかにさまざまな健康づくり対策をしているところですが、母親学級から乳児健診、乳児相談、3歳児、4歳児健診、保健の指導、こういったものもその一つであります。高齢化によりまして寝たきりゼロを目指しての疾患の発生予防等、ほかにもさまざまな角度からの健康づくりが行われております。

これからの市で行っていかうとしております健康づくり体制をより充実させていく問題の一つとして、検診の事後指導、健康相談そのほかに対応してくれております栄養士さんが今非常勤でいるということは御存じのとおりでございますが、私は非常勤であるというのはいかななものかという思いでございます。この問題は、昨年12月議会で同僚議員の質問に対して近い将来常勤化に努めたいというような答弁があったかと記憶をしておりますが、その後どのような状況にあるのかお伺いをいたします。

次に、第2点目でございますが、駅前駐輪場の整備状況なんですけれども、昨年駅前、日東交通の隣に駐輪場が仮設をされまして、以前は道路に雑然と置かれていました自転車も今では整然と整備をされているようになりましたが、これは高齢者働く会の方々25名とお聞きをいたしました。毎朝7時から9時までの2時間を2名交代で日曜を除く毎日きちんと整備をされております。私もよく見かけますが、雨の日も雨具を身につけての整備状況を見ますと、本当に頭の下がる思いでございます。この方々の努力のおかげで最近駐輪場が見苦しくなくなったと市民や利用する方々の声がございます。

駅前の駐輪場の利用者は、多くはJRの利用客ではないかと思うのですが、館山は西口開発事業も抱えておりますし、橋上駅舎の問題もございます。現在の駐輪場だけでは足りないことははっきりしておりまして、市の基本事業計画の中にも駐輪場が今よりも増設をされる計画になっていると思いますが、どのような状況になっておりますでしょうか、見通しで結構ですのでお伺いをいたします。

次に、第3点目でございますが、学校5日制の問題なんですが、昨日来この問題につきましては同僚議員の、先輩議員の方から同様の御質問がされておりますが、私の観点からの ― この9月の12日学校5日制がスタートしたわけですけれども、それを見ました上での御質問を申し上げます。

9月から学校5日制がスタートいたしまして、子供たちが家庭や地域社会の中で子供たち自身で自由な時間を確保し、ゆとりのある生活の中から自らが考え、判断し、行動ができるような能力の育成を目指すという目的の一つというふうに聞いておりますが、またもう一方では教職員の週休2日制の問題も絡んでいると言われております。

しかしながら、実際にはこの学校5日制の制度そのものにはさまざまな問題を抱えておりまして、例えば休みとなる土曜日の授業をほかの日に上乘せをしなければならないというのが一つの例ですけれども、これでは詰め込み教育を打破するための政策が詰め込み教育そのまま、子供たちにゆとりが得られるかどうか疑問に思うところであります。ゆとりのある教育を回復するためにも授業時数の削減を求めているかなければならないかと思います。現在学習指導要領によります授業時数は中学校で1,050時間、小学校上級生で1,015時間であると聞いております。日本の子供は欧米の子供たちより約3割も長く学校で授業を受けていると言われておるようです。

週休2日に向けていこうとしている今、そのほかにもある課題を整備するなどしていく必要があらうかと考えます。また、こういった問題は教師と父母がともに学校、家庭、地域社会のあり方を考え合うにはよい機会ではないかと思います。

そんな社会情勢の中で、館山市の学校5日制はどのような進め方をしているのか、お伺いをいたしたいと思います。

次に、第4点目でございます。在宅の要介護者等への援助の充実の問題ですけれども、これは以前に ― 昨年の6月議会でしたか、大まかにはお伺いをしておりますが、今回はその中から、身の回りから ― 小さなこととは存じますが、在宅の介護を受けている方、介護をされている方への市の援助についてお伺いをしてまいります。

介護を必要としながら在宅で生活をされている方といっても、さまざまな障害を持っている方がいるわけです。年齢も小さいお子さんからお年寄りまでいるかと思います。全くの寝たきりでいる方や、手をかしてあげれば何とか歩けたりする方等さまざまな方がいるわけですが、そのような方々への市の援助ですが、また援助によりましてさまざまな形の援助があると思いますが、しかしながら市の援助、助成、給付、こういったものは現状では足りていないと思わざるを得ません。きめ細かい援助ができていますかどうか。

人の手をかりながらの生活をしなければならない人やその方を介護する方の負担は財政面や精神的な面にまで大変なものです。在宅で介護している方のほとんどが一人で介護をされているのが現実だと思うのですが、まさに介護する方にとっては綱渡りの毎日ではないでしょうか。介護する方の負担を少しでも軽くしてあげられるようまさにきめの細かい援助が必要かと思います。例えば、食べることから日常の世話を経て就寝するまでの一日を考えていただきたいと思います。

県内の市町村によっては援助様式異なるかと思いますが、ぜひ進めてほしいものがあれば、市でもぜひ受け入れていていただきたいと思います。現在の市で行われている要介護者への助成は大まかには以前にお聞きをいたしておりますが、その後に新しくできたものなどあるでしょうか。ありましたら伺いをして、在宅の要介護者等につきましてのより充実を目指す御質問をしたいと思います。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、住民の健康づくり体制のより充実をとの御質問でございますが、生活習慣、栄養の偏り等に起因します成人病が増加しておりますので、これら疾病の予防、健康の保持増進を図るためには、食生活における栄養指導がますます重要になってきております。栄養士につきましては必要に応じて雇い上げておりますが、常勤の栄養職員につきましてはただいま検討中で

ございます。

次に、大きな第2、駅前駐輪場の整備状況についての御質問でございますが、今後の整備計画といたしまして、将来の増加を見込み、計画台数を1,000台程度とし、駅周辺市街地整備事業との整合性を保ちながら、東口、西口ともに500台程度収容の自転車駐輪場の設置を計画しております。

大きな第3、学校5日制にかかわります問題につきましては教育長より答弁申し上げます。

大きな第4、在宅の要介護者への援助充実の問題でございますが、各種援助制度といたしましては、手当関係で特別障害者手当等、日常生活用具の給付につきましては、寝たきり老人と重度身障者等を対象といたしました援護制度があります。また、増改築に係る援助といたしましては、生活福祉資金の貸し付け制度と高齢者及び重度身体障害者居室等増改築改造資金の制度等がございます。さらに、援助といたしましては、ホームヘルプ、ショートステイ事業等によります援助制度もございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 大きな第3、学校週5日制の開始に当たり、ゆとりある教育はできると思われるかとの御質問でございますが、各学校において新しい学力観に立っての教育課程の編成や学校運営の工夫により、ゆとりある教育に努めております。特に、学校週5日制は毎月第2土曜日が休業日になりますので、子供も教職員も時間的、精神的に余裕ができ、ゆとりある教育が推進できるものと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それでは再質問させていただきます。

順を追って質問をしたいと思うんですけれども、まず1点目なんですけれども、今このお隣に座っておられる植木議員がたしか去年の12月にこの問題をお伺いしたときに、前向きに検討中である、前向きに対処したいというよ

うなことだったと思うんですけれども、具体的に次年度からそうしますというふうにはなりません。もう1年たつわけです。そういうふうになりませんか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長が答弁いたしましたとおり、現在検討中ということでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 何かこの検討中という言葉は非常に便利な言葉で、どのようにもとれるんですけれども、実はこの間栄養士さんの——県下なんですけれども、県下の中でほかの市町村ではどうなっているのかなという統計を見ましたら、驚いたことに本当に県内で安房郡は皆無と言っていいような状況で、特に館山、鴨川、勝浦、この3市は常勤の栄養士さんがいないんです。先ほども答弁にありましたように、やっぱりこれから栄養面ではいろんなことが仕事で言いますとふえてくると思うんです。そういったことを考えますと、やはり余りいつまでも検討されていても困るというようなことを本当に思います。

私も経験あるんですけれども、例えば——御存じのように私障害を持った家族を抱えておりますが、病院から家庭に帰るときは病院の栄養士さんとかケースワーカーさんが本当に親身になって助言してくれるわけです。ところが、家庭に帰って何年かたちますと、病院とやっぱり縁が切れてきますと、ちょっとしたときに聞きたいこととかあるわけです。そういうときに、私はできれば常勤で栄養士さんでもいてくれればちょっとのことを聞けるなというような気持ちもございます。また、市民の中にもそういったことをおっしゃる方もいらっしゃいました。

検討中であるということで、去年はたしか前向きに検討中だったんで、ことしは何か検討中ということなんで、どうしてもいつかということはおっしゃれない、わからないという判断でよろしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 栄養士につきましては、現状におきましては非常勤

の職員で対応されております。これは健康診断などによりまして成人病問題が出てきましたときに、どうしても個人的に栄養指導をする必要があるという観点に立ちまして、状況に応じて非常勤の職員をお願いしているわけでございます。

しかし、これからの時代を考えまして、また高齢者の増加もございます。成人病の増加も考えられますので、平成5年度から常勤の栄養職員を置きたい方向で検討中でございますので、御了解を賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 先に言ってほしかったんですけども、5年度から栄養士さんが常勤になるということで、本当にこの栄養士さんの仕事も、今までとはまた違った意味で本当に幅広いことをお願いしていかなきゃならないんじゃないかなというふうに思うんですけども、5年度から常勤化をしようとして今検討しているということですので、私たちが安心してまた生活できるように市の方もやっていただけるということですので、ぜひこの問題につきましても、いつでも安心して相談していいですよというようなことをPRしていただけるような、そういうふうな機会をまたつくっていただきたいというふうに思います。

2点目なんですけれども、駅前駐輪場の問題なんですけれども、私基本的には駅前駐輪場というのは皆さんも御存じのようにJR——ここで言えば、館山で言えば、JRの館山駅の利用者がほとんどではないかというふうに思います。そういうことを考えましても、基本的には市が責任を持ってそこに駐輪場を仮設しなければいけないという性質のものではないんじゃないかという考えもあります。やっぱりJR自身の御努力というのか、によって駐輪場を市と一緒に、利用する自治体と一緒にやっていこうというのが私はよりすっきりした形ではないかなというふうに思うんですけども、確かに日曜日を除きますと、本当にこの高齢者働く会の方々がよくやっていらっしゃる、と、どんどん、どんどんもっと奥へ詰めなさいということで指導をしているようです。ところが、日曜といいますと、この方々がいらっしゃる、日

曜日には乱雑に置かれているというような状況もあるかと思います。

この駐輪場は — 第一家電さんの隣にあります駐輪場はたしか 200台収容です。それで、日東交通のわきにできました新しい方が 280台というふうに聞いているんですけれども、あの両方の駐輪場で年間たしか4回の撤去作業をしていると思うんですけれども、この館山でどの程度の撤去車、撤去自転車があるんでしょうか、おわかりになりましたら教えていただきます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 駅前の駐輪場の関係でございますけれども、年4回定期的に防犯診断という形で市の防犯協力会と警察と合同で実施しているわけですが、その中で放置自転車、こういう関係を調査いたしまして撤去をしております。昨年度は52台の撤去をしております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 52台ということは、今の駐輪場はできてまだ日が浅いですから、私が見ましても、以前よりは撤去の自転車は少ないかな、車面は少ないかなというふうに思うんですけれども、ただ本当にこの駅前駐輪場につきましては、西口問題とか橋上駅舎の問題もありますけれども、本当に増加が見込まれるわけですから、例えば今の時点でどこに新しい増設される駐輪場をつくっていくかというような案は具体的になっていますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 西口の関係の自転車駐輪場でございますけれども、市長が答弁いたしましたとおり、館山駅西口地区土地地区画整理事業、この中で検討しておるところでございます。具体的にはどこどここというような — 具体的には決定されておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これからいろいろ開発事業が — これからの問題ですから、平成8年度の完成予定になっていると思うんですけれども、それに

向けて一つ要望しておきたいことは、人間の心理といたしまして、私なんかもそうなんですけれども、急いでいるときもう特にそうですが、なるべくその目的地の近くがいいというふうに思うんですよね。とんでもないところに、遠くの方につくることのないような、そういったことでお願いをしておきたいというふうに思います。

3点目なんですけれども、学校5日制の問題です。きのうも学校5日制の問題につきましてはさまざま議論ございましたけれども、私が考えますに、特にこの問題で、幼稚園児や小学校の低学年の子供さんたちの親御さん、この方々が一番不安を持ってこの日を過ごしたんじゃないかなというふうな気持ちなんですけれども、昨日でしたか、学校開放で対応をした人数はお聞きしましたので、その人数等はお聞きをいたしません、私は本当に社会的な条件整備ができていない上でのスタートによって、関係の方々のことを思いますと、本当にどんな思いでいるんだろうなというふうに——12日が無事に終了してよかった、ほっとしたというふうに思われた方もいるんじゃないかと思います。

そんな中で、全国的にそうなんですけれども、さまざまなイベント等が行われていたことが報道されていたようですけれども、館山でも映画会であるとか企業によります無料化ですとか、そういういろんな協力をいただいたようですけれども、こういった今度の9月12日の開始に当たって行われたさまざまなイベント、行事等はこれからの第2土曜日も行われていくようなことになるんでしょうか、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） これからの第2土曜日でも従来と同じようにやるかどうかという御質問でございますが、できるだけそのように行事を行ってきたい、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私も近所の子供たち数人にこの12日の過ごし方についてちょっと聞いてみたんですけれども、基本的には全員の子供たちが非常に休みを喜んでいたというのが実情です。ただ、いろんなイベントをいろん

なところでやっていましたので、あっちへ行ったりこっちへ行ったり非常に忙しかったというようなことを言う子もいましたけれども、でもそういう子供たちも本当にうれしそうに話をしていたということで、私もよかったねということを話しましたけれども、その中で1人の子が、お母さんと今まで離れてどこかへ出かけるということがなかったけれども、お母さんに地図を書いてもらってバスで冒険に行ったというようなことを話していましたので、どうしたのって聞きましたら、バスでいろんなところへ行ってきたんだよ。道に迷ったけれども、お店屋さんに行くはずが海岸に出てしまったけれども、海岸で遊べてすごくよかったというようなことを話した子がいたんですけれども、本当に目をぎらぎらさせて、本当に楽しかったんだなというような思いをしたものなんですけれども、ただ私は——これ全国的な報道も——テレビ、新聞等もそうなんですけれども、見ますと、非常にこの9月12日がお祭りのような1日だったなというような感想を持っておるんですけれども、これからさまざまな問題が降りかかってくると思いますけれども、例えば学校開放した際の指導員の問題であるとかがその一つなんですけれども、今回の学校開放したときのあの指導員の方はこういった方が対応をなさったのでしょうか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 指導員をお願いしたところは、昨日も申し上げましたんですが、北条小学校、那古小学校、船形小学校、館山小学校、4校でございます。北条小学校は加藤幸子さんという保護者の方の代表でやっていただいたそうでございます。残りの3校につきましては、各学校とも教頭先生が出られて指導をしておられました。教頭先生が適当であるかどうかにつきましては今後も研究いたしたいと考えておりますけれども、今度の場合は、準備はしておったんでございますけれども、非常に指導の対象となる児童が変化いたしましたものですから、その指導員の確保ということに若干手遅れがあったのではないかと反省はいたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君）　そういうことは、市内では保護者の代表の方が1名で、あとは教頭先生ということで、教頭先生もお休みになれないで大変でした。

これからこの指導員の問題も出てくるんですけれども、この指導員というのはあくまでもボランティアというようなことになるんでしょうか。

◎議長（福原　勲君）　福原教育長。

◎教育長（福原　修君）　そうでございます。

◎議長（福原　勲君）　鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君）　ボランティアということであると、さまざまな人がこれから対応をしていくこともあり得ると思うんです。ただ、私もいろんな学校の休日の問題につきましても、何か休日に――休日といいますと休んでいるのが普通なんですけれども、部活であるとか行事であるとか、何かそういうことで多々出なければならぬというようなことが非常に多いように思うんですけれども、その辺に對しましてお考えはいかがですか。

◎議長（福原　勲君）　福原教育長。

◎教育長（福原　修君）　教師は勤務を要しない日でございますから、当然日曜日と同じでございます、休んでいるわけでございます。ただ、教師ではいけないということはございまして、地域の市民として自発的に活動するということも可能であるわけでございまして、そのような形でできるだけたくさんの人びとに御指導いただきたい、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（福原　勲君）　鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君）　本当にこの問題はスタートしたばかりですから、これから先ほど申しましたようにいろんな問題がきっとまた出てくることもあるかもしれません。また機会がございましたら質問させていただきたいというふうに思います。

次に、4点目なんですけれども、私今回何軒かのお宅にお邪魔して私なりの聞き取りを行ってまいりましたけれども、自分のことも含めましてさまざまな――在宅で介護をする方、される方、さまざまな障害を持った方がいら

っしやるわけです。別にお年寄りと限ったわけではございませんので、その辺をまず頭に置いての質問にしたいと思うんですけれども、例えば先ほどの日常生活用具に対しての助成制度なんですけれども、これは例えばパンフレットか何かになって、こういうものがありますよというようなお知らせをするものはありますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる寝たきり老人等の日常生活用具の給付事業でございますが、このいわゆるPRの関係は、御承知のとおり広報等で福祉の欄があるわけでございます。そういうところでやりますし、また「福祉の現況」等もつくりましてPRを図っているところでございます。また、今年度の計画でいわゆる在宅のそういう関係の小冊子をつくりたいというような計画がありますので、その中でPRを積極的に図っていききたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） PR用のそういう小冊子みたいなものをつくっていただけるというようなことで、それは了解をいたしました。

例えば日常介護をしていらっしゃる方、例えば介護を受けなければならない方に対して介護する方が何人に対応しているのかということまで把握はしていますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この日常生活用具給付事業につきましては、いわゆる個人の申請に基づいて給付をするわけでございます。それぞれのケースによって介護者が若干違っていくというようなこともあろうかと思えますけれども、いわゆる在宅の場合の通常見られる状況については、だれが見ているかということになると、配偶者とか嫁とか、そういうようなこと。それにプラスいわゆる公的な援助、私的な援助——ホームヘルパーとか、そういうような方がついていくというようなことになろうかと思えます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私今回回った中で、ある1軒のお宅ですけれども、

お嫁さんが1人で寝たきりの—— たまたまおばあさんでありましたけれども、しゅうとさんを見ていらっしゃったんですけれども、介護によって腰を痛めてしまった。それで、自分ではもうどうしようもないということで、ほかの家族はみんなそれぞれ働いているというようなことで、なすすべもなく病院に頼み込んで、病院の方に今お世話になっています、何かいい手だてはないんですかというようなお話がありましたんで、市にはショートステイ—— 対応しますよね。ということがあるんですよというような話をしたんですけれども、そういうことを知らなかった。話に聞くと、あってもややこしいんでしょうというようなことをおっしゃいました。一般の人の意識ですと、やっぱり制度があるのはわかっている、それをどういうふうにしてやったらいいのかというのが非常にわかりにくくなっているのが事実じゃないかと思うんです。

だから、その辺のことを—— ただ単なるPRによってこういうものがあるということを知らせるだけではなくて、もうちょっとそこに気持ちを加えていただきたいというような—— 抽象的な言い方ですが、ふうに思います。それによってそういう方々が少しでも体が、また精神面でも楽になってくれれば非常にいいんじゃないかなというふうに思います。

この日常の生活用具なんですけれども、市によって本当にさまざまなものがありまして、私もたまたま習志野、船橋ですか、そのしおりを見せていただいたんですけれども、入浴のための担架であるとか体位の変換機器であるとか特殊尿器であるとか電動歯ブラシであるとか、そういうところまであったわけなんですけれども、今後のことも含めまして、そういったいろんな日常生活用具を今後ふやしていくようなことはどういうふうにお考えでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かにこの日常生活用具の給付事業一つとりましても、各自治体の対応といたしますか、そういうものが若干ずつ違ってきている、それは確かでございます。ただ、基本的には国が定めた基準がベースになって、それに県が補正し、補足し、また市も補足していくという基本の

ところは同じなわけでございます。

御承知のとおり、今回平成4年度に保健福祉計画の調査をいたすわけでございます。館山市におきましても150人の要介護者の方々に調査をいたすわけでございます。当然こういう項目も入ってくるわけでございますので、そういう実態を見ながらまた計画に乗せ、また今後拡充強化を図っていきたい、あくまでもニーズによって図っていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） わかりました。いろんな面でこれからまたその点につきましては見ていきたいというふうに思います。

あと一点ちょっとお聞きしたいんですけれども、増改築に対しての市での助成なんですけれども、どのようなものが具体的にあるのか。これは社協で行っています貸し付け制度は除きまして、増改築に対しまして市で行っている助成、給付等ありましたらお答え願いたいんですが。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市で行っているいわゆる在宅の住宅関係でございますけれども、市で行うべきものをいわゆる社会福祉協議会の方をお願いして、向こうで実施している2つの――御承知と思いますけれども、2つの制度があるというふうに認識しております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私も以前にお話ししたことあると思うんですけれども、そのようになってもらえれば一番いいなと思うんですけれども、東京の江戸川区のような負担が少なく済むような――増改築ですか、改造に対して区があそこは全面的にバックアップしてくれているわけなんですけれども、将来的にはそういうふうになってくれればいいなというふうには思います。今は若干無理かなというような気もしますが、ただ本当にこれはすごくお金のかかることで、普通のものよりも倍もかかる問題ですから、こういった今後の問題も含めましてよろしく対応をしていただけてますようお願いをして、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午前11時41分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は明18日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。平成3年度各会計決算に対する質疑の通告の締め切りは18日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問